

の如くにて見わけがたし、葉をならべて見れば、うるしは廣く、櫨は少し狭きが如し、然れ共秋の末に至れば、櫨の葉は黄色になり、其後赤みさして、黄赤交りたる色に成是をじ色といふ、鑑の云これ終には紅になるなり、是をはじもみぢといふ、歌にもよめり、又此木を染草に用る故に、和名類聚抄にも染色具に出せり、心の黄なるところを取て、古は染草にして黄色に染たり、天子の御袍に黄櫨染といふは、この染草を用るなり、又この實より蠟をとる、是最上品也、凡蠟をとるには、琉球ハジといふもの實大にしてよしと云、此琉球ハジも紅葉うるはしきものなり、葉は常のよりまるくゆたかなるもの也、

〔大和本草雜木〕十二黄櫨ハジ 漆ヌルデノ類也、其材作弓、其葉秋紅ナリ、平原ノ地ニモ能紅也、多ク植テ可

愛賞、其實蠟燭ニ作ル、民ウヘテ利トス、植ル法、其實ヲツトニ包ミ水中ニ浸ス事三七日、稻子ヲヒタスガ如シ、取出テウフベシ、後生ズルマデ七日ホドハ糞水ヲソ、グベシ、糞水ハ糞一桶ニ水二桶ヲ合スベシ、救荒本草ニ、回々醋ト云木アリ、是ハジノ木カ、琉球ハジノ木アリ、實ハ常ノハジヨリ大ナリ、大豆ホドアリ、小木ノ時ヨリ實ノル、多クウヘテ可爲蠟燭、民ノ利トナル、其葉秋冬紅ナリ、可觀賞、大木トナリテハ實彌多クナル、

〔和漢三才圖會喬木〕八十三黄櫨 和名波邇之 俗云波時乃木略○中

按、黄櫨以染黄色、天子御袍稱黄櫨染是也、染帛上用砥水、略染則爲黑茶色、其葉小淺青色、莖微赤、三四月開小白花、結細子、至秋紅葉、

〔重修本草綱目啓蒙喬木〕二十四黄櫨 詳ナラズ

櫨ノ字和名抄ニハニシト訓ズ、又黄櫨モハニシト訓ズ、皆非ナリ、ハニシハハジナリ、今ハハゼト呼ブ、即漆ノ一種ナリ、故ハゼウルシ、一名ヤマウルシト云、山中ニ甚多シ、葉ハ漆葉ニ似テ粗キ鋸齒アリ、秋月早ク紅葉シ甚美シ、ハゼモミジト云、又一種實ヨリ蠟ヲ採ル者ヲモハゼト呼ビ、諸國